



「ご苦勞様です」「ありがとうございます」と言われ、これが、やらされ感のない取り組みにつながったようです。

ユニーの特徴だと思うのですが、何らかを企画したとき、本部からの指示があるなしに関わらず、自らの意志で全店が実行しますね。

佐古 企業として、誠実さが非常に重要な視点です。その視点を従業員が持っているからこそ、全体活動にスピードが出て徹底することにつながっているのでしょう。環境や社会貢献活動に関しては、何か大々的に画期的なことよりも、地道に誠実に取り組んでいくことが重要ですから。

自治体との包括協定締結

一地域社会への貢献

佐古 2011年3月11日の東日本大震災では、被災地への物資の搬送が交通規制によって止められるなど、小売業だけでは支援活動に限界があると感じました。地域社会への貢献を確実に実行するためには行政との連携が欠かせないとして、2011年11月に愛知県と「連携と協力に関する包括協定」を締結しました。2012年には千葉・岐阜・石川・三重・静岡・神奈川県と締結し、現在7県です。行政との相互連携と協力により、サービスの向上と地域の活性化を図ります。地域の安全・安心の確保、観光や県産品の情報発信、地産地消の推進、子育て支援など、多岐にわたります。例えば、災害対策として店の施設を一時避難所として提供する、生活必需品を可能な範囲で調達・配送する、県はその運搬を優先運行する、といったことです。大きな災害時にはいち早くサービスが受けられ、県民の安心につながります。締結がさらなるサービスにつながるよう取り組んでいきます。

百瀬 その他にも、地域社会を豊かにするさまざまな情報発信もしていきたいですね。例えば、認知症への理解を深める活動。各店舗では認知症サポーターの勉強をしていますが、それだけではなく来店されたお客様にも認知症のことを知っていただき、地域全体で支援する活動、イベントを店舗で開催しています。

佐古 重要なのは、特定の従業員だけが担当するのではなく、従業員一人ひとりがまず勉強に参加すること。学ぶことで、サービスという価値観をどう提供するかと考える発端になりますから。

店舗での取り組みが、地域で高齢者を見

守る体制作りに役立っていけると嬉しいですね。

ESDへの取り組み

一子どもたちへの働きかけ

百瀬 ところで、ESD (Education for Sustainable Development) 国際会議が2014年に愛知・名古屋で開催されます。ESDは、ユネスコが推進している持続可能な開発のための教育のことです。愛知県から協力要請を受けており、これまでの経験を活かし積極的にサポートします。

ユニーでは環境部を設立した翌年2002年から、子ども環境学習を実施しています。それは環境に対する意識は大人になってからではなかなか身につかないと気づいたからです。1年間に3000～4000人の子どもたちが参加する環境学習「エコロお店探検隊」「エコクイズラリー」を開催しています。ポイントは、環境についての知識、知識を行動に移すことを必ずセットにしていること。例えば、牛乳パックを持参しての紙すき教室で葉書を作ります。この体験で紙の再生を実感できます。実感すれば行動につながります。こうした体験を通して、「牛乳パックは、リサイクルするためにお店へ持っていかんだよ」と、リサイクル意識の定着になっているようです。

佐古 私は、それがレベルの高い環境学習だと思うのです。高いレベルとは高度なことではなく、身近なところで具体的なことをきちんと知り、その一歩先をきちんと理解し行動することです。

百瀬 また、小学校や児童館への出前授業も行っています。楽しく学べるように、使い終わった容器などを使ったエコ工作やゲームで「地球に優しいお買い物」をテーマに実施しています。お買い物を通して環境貢献ができる大人になってほしいと期待しています。

佐古 子どもたちには何より経験させることで環境意識が高まります。未来の地球環境をより良くしていくために子どもたちへの働きかけは、とても大切なことです。子ども達やお客さま、従業員に対しても「わかりやすい言葉」で伝え、誠実に取り組んでいくことが重要です。いくら素晴らしいことでもわかりにくければ人は動きません。どうすればわかってもらえ、実現できるのか。未来を生きる子どもたちのために、常に知恵を絞り取り組んでいきたいと思います。

ホールディングス化への期待

百瀬 今年2月、持株会社ユニーグループ・ホールディングス株式会社が誕生しました。さまざまな事業でのグループ力に大きな期待が寄せられています。

佐古 環境・社会貢献においては、特に期待が大きいと言ってよいでしょう。事業形態は違っても、グループとしての価値観がここにありますから。価値観とは「それぞれの店が地域のお客様に対してどう貢献できるか」ということです。

それは、それぞれのグループ企業が扱う商品やサービスがお客様の生活を豊かに最適なものにしていくこと、そのことを従業員が誇りに思えること。

ユニーは今まで成し遂げてきた「環境社会貢献、地域への貢献」をグループ会社に伝え、一緒に活動してシナジー効果を出していくことが、大きな役割だとしています。

例えばグループの力を結集して開発しているプライベートブランド商品の中で「eco! on」は、品質・価格だけではなく、環境にも配慮した商品です。こうした商品をグループ会社で販売することが環境貢献することであり、お客様は「購入することで環境貢献できる」仕組みです。

営業面だけではなく、環境貢献や社会貢献を進めていくことで、企業としての価値を高めていくことも、これからの課題です。

百瀬 ユニーは持続可能な社会を目指してきました。これからはグループ全体で持続可能な社会を構築し、持続可能なユニーグループ・ホールディングスにしていくために、頑張らなければいけませんね。



代表取締役社長 佐古則男 (左)、
グループ環境社会貢献部長 百瀬則子 (右)

